

入試情報 令和8年度 島根県立農林大学校 林業科学生募集

◆募集人員及び修業年限

募集人員	修業年限
20人	2年（早期養成コースは1年）



詳しくは
農林大学校ホームページから
学生募集要項・学校要覧等
をご覧ください

農林大学校入試情報

◆入学試験の区分等

試験区分	願書受付	試験日	合格発表
学校長推薦入試 [出身指定学校長推薦 出身学校長推薦A・B]	R7年9月24日(水)～10月8日(水)	10月30日(木) ※出身学校長推薦A・Bのみ	11月19日(水)
一般入試	前期	R7年12月19日(金)～R8年1月9日(金)	1月27日(火)
	後期	R8年2月16日(月)～3月2日(月)	3月13日(金)
地域推薦入試※	第1回:R7年9月24日(水)～10月8日(水) 第2回:R7年12月19日(金)～R8年1月9日(金) 第3回:R8年2月16日(月)～3月2日(月)	第1回:10月30日(木) 第2回:1月27日(火) 第3回:3月13日(金)	第1回:11月19日(水) 第2回:2月13日(金) 第3回:3月19日(木)
早期養成コース	第1回:R7年12月19日(金)～R8年1月9日(金) 第2回:R8年2月16日(月)～3月2日(月)	第1回:1月27日(火) 第2回:3月13日(金)	第1回:2月13日(金) 第2回:3月19日(木)
試験場所	島根県立農林大学校 大田本校（大田市波根町 970-1）		

※印：農業再生協議会・林業認定事業体・流域林業活性化センターの推薦

オープンキャンパス2025 “緑の学園”

日程：令和7年7月23日(水)・7月26日(土)

場所：島根県立農林大学校 飯南キャンパス



「生命地域」を未来へつなぐ しまね・中山間地域セミナー 《第1回テーマ8食と地域》

開催日 2025.10.3(金) 14:00～16:30

ところ 島根県中山間地域研究センター（島根県飯石郡飯南町1207）

入場無料・要事前申込（申込期間9月3日～9月24日 定員100名 先着順）
申込方法はセンターのHPをご覧ください

主催：島根県中山間地域研究センター

お問い合わせ TEL：0854-76-2025



- 基調講演 講師：藤原辰史氏
（京都大学人文科学研究所教授）
- 中山間地域研究センターからの報告
- 意見交換

藤原先生のプロフィール

島根県横田町（現奥出雲町）出身
1995年 島根県立横田高校卒業
1999年 京都大学総合人間学部卒業
2025年 京都大学人文科学研究所教授
専門は農業史、環境史
著書に「緑食論」
「食べるとはということが」
「分解の哲学」
「ナチス・ドイツの有機農業」
「カブラの冬」など
山陰中央新報「羅針盤」に執筆



島根県中山間地域研究センター情報誌

Chu-San-Kan press

チュウサンカンプレス

令和7年

Vol.41

研究の森から中山間地域を応援します



オニグルミ
～広葉樹造林の
新たな選択肢～
【森林保護育成科】



育っています。
地域づくりに
関心がある若者たち。
【地域研究科】

若者が参加する漂着ゴミの回収活動



島根県中山間地域研究センター情報誌

Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス 令和7年
研究の森から中山間地域を応援します Vol.41

編集・発行

島根県中山間地域研究センター
〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207
TEL 0854-76-2025 FAX 0854-76-3758

WEBで検索 島根県中山間地域研究センター

検索

QRコードは
こちら！



／オニグルミ／

広葉樹造林に向けて

～広葉樹造林の新たな選択肢～

島根県内ではスギやヒノキといった針葉樹が広く植林されていますが、広葉樹の植林はあまり進んでいません。その理由は、広葉樹の苗木は針葉樹より高価であり、植えてからの育成にも労力や時間がかかるためです。しかし、広葉樹は針葉樹にない用途や生物多様性の点から注目されており、その中でも特に魅力があるのがオニグルミです。



植林された針葉樹（スギ）



成木したオニグルミ

（樹高：約20m、胸高直径：約72cm、島根県飯南町）

オニグルミとは

クルミの仲間は世界中に生育しており、食用や木材として利用されています。日本国内ではオニグルミが広く分布しており、その種子は東北地方でくるみ餅などの伝統料理の食材として親しまれています。



オニグルミのダイニングセット

木材としての高い価値

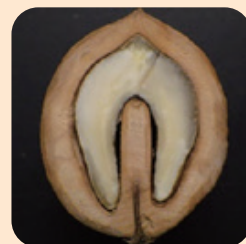
オニグルミの木材は適度な硬さがありますが、切削などの加工は容易で、仕上げた表面は滑らかで淡い褐色です。また、変形が少ないことから、フローリング、家具などの用途に適しており、近年は日本版ウォールナットとして人気が高まりつつあります。



直播き後6年目のオニグルミ
（樹高：約5m）

しかま 直播き造林を目指して

オニグルミは、種子内部に養分を多く蓄えているため、発芽後の成長が非常に早いという特徴があります。このために苗木を使わず、山に種子を直接まいても（直播きといいます）、雑草木に負けずに育つと考えられます。



オニグルミの種子

（右：内部の様子で養分がたくさん含まれている）

そこで試験地を設定し、オニグルミの種子を播いて適切に育林作業を実施しながら成長を観察しました。その結果、場所によって差はあるものの、種子をまいてから6年で高さ5m以上に成長する木もありました。

この研究は、オニグルミの直播きが広葉樹造林の有望な選択肢であることを示しています。苗木を植えずに種子を直接まく方法はコスト削減にもつながり、広葉樹の植林が普及する可能性があります。

育っています。地域づくりに関心がある若者たち。

現代の若者は「地域づくり」に関心があるのか？

こうした問題意識を出発点として、現役高校生、大学・専門学校生を中心に若者の「地域づくり」への関心や中学・高校での「地域を学ぶ学習」の経験の有無や内容を把握するため、関東地方から九州地方の大学等14か所の教育機関の協力を得てアンケート調査を行いました。

実は多い「地域づくり」に関心がある若者（図1）

地域づくりに「とても関心がある」、「少し関心がある」と答えた人の割合は、島根県以外の若者が79%に対して本県出身者は88%で、他の都道府県出身者と比較して9%高いことが確認できました。

アンケート調査の概要

調査期間 2023年11月～2024年3月
対象 高校生(13.7%)、大学・専門学校生(84.9%)、社会人(2.1%)
回答数 523人 うち島根県出身者 58人

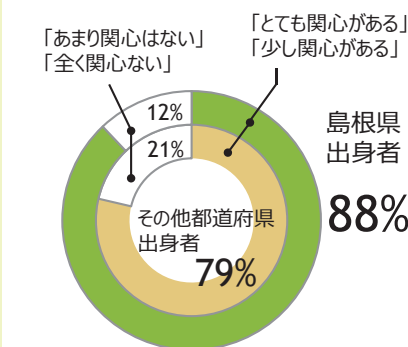


図1 地域づくりに「とても関心がある」、「少し関心がある」と答えた人の割合

学校と地域コミュニティが一体となった“地域を学ぶ環境”（図2）

島根県では、平成17年から全ての公立中学・高校で「ふるさと教育」が展開され、地域コミュニティと一体となった“地域を学ぶ環境”が整備されました。このような背景が、本県出身者における「地域づくり」への関心の高さに関係している、と考えられます。

実際に、中学・高校での「地域を学ぶ学習」を経験した人の割合をみると、島根県はその他の都道府県を上回り、特に高校では本県出身者が87%に対して他の都道府県が53%でした。

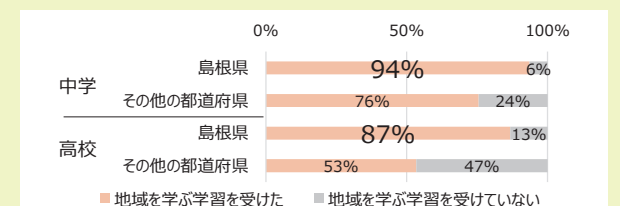


図2 「地域を学ぶ学習」を経験した人の割合

「地域を学ぶ学習」で取り組まれていること（表1）

学習内容をみると、中学では、一般的にまちあるきや地域資源について学ぶ「地域を詳しく知る」学習が主流です。一方、本県出身者は、地域課題をテーマに自らが解決方法を考え実践する、能動的な学習を経験している割合が、他の都道府県と比べ、10%高い結果が示されました。また、高校においても、本県出身者は、地域のワークショップへの参加や大学生との交流など、様々な世代との交流を経験した人が多いことが分かりました。

このように、**本県出身者は中学～高校にかけて実践型学習に取り組んでいる実態**が明らかになりました。

中学 (334人)			高校 (258人)		
	島根県	島根県以外		島根県	島根県以外
地域に詳しい人から話を聞く	45%	50%	地域課題に対する解決策の企画実践	59%	41%
まちあるきと地図づくり	41%	54%	インターンシップや地域農業の体験	35%	21%
インターンシップや地域農業の体験	39%	29%	地域に詳しい人から話を聞く	26%	33%
地域課題に対する解決策の企画実践	32%	22%	まちあるきと地図づくり	24%	27%
地域資源や特産品に関する学習	27%	19%	多様な世代とワークショップに参加	24%	10%

表1 中学、高校で経験した地域を学ぶ学習の内容

地域づくりに参画したい若者が活躍する受け皿づくりがカギ

調査を進めると、中学・高校・大学で地域づくりに関わっていた人の中には卒業後、地域との関わりが途絶えてしまった人も一定数おり、せっかく築いた地域とのつながりが活かしきれていない事実も確認できました。**地域に再び招き入れるための情報発信と活躍できる機会の設定**という地域における若者の受け皿づくりが、地域側で強化すべきポイントと言えるでしょう。地域研究科では、受け皿づくりにつながる支援や手法を地域や教育に携わるみなさんと共に引き続き考えていきます。



写真 幅広い世代が参加する草刈り応援隊（雲南市）